（様式）

京都大学若手人材海外派遣事業　ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 25 年 8 月 30 日

1．渡航者			
氏　　名	長尾　美紀	採択年度	平成 25 年度
部　　局	医学部付属病院	電　話	
職　　名	講師	メール	
研究課題名	Investigation of Developments and National Experience in the Area of Nosocomial Infection Surveillance and Medical Audit of National Health Service in England		
海外渡航期間	平成 25 年 5 月 1 日～　平成 25 年 8 月 12 日		

2．渡航に関する情報	
渡航先	国名：英国 大学等研究機関名：Imperial College London 研究室名等：Department of Medicine, Centre for Infection Prevention and Management 受入研究者名：Professor Alison Holmes
渡航期間中の出張 （渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。） ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先： 目的： 期間：

3．ジョン万プログラムによる成果 以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ページ数については増加してもかまいません。	
国際共著論文の執筆 （論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等）	[Development and experience of an antimicrobial stewardship program in England. Comparison with other western countries and Japan] Holmes 教授と共同で報告書を執筆した。投稿原稿を準備中である。また、この報告書をもとに今後は抗生剤処方と cultural difference に関する研究を行う予定である。

（様式）

更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施 （国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等）	・英国と日本における Antimicrobial stewardship での薬剤師の役割比較に関する調査研究 (Dr Mark Gilchrist) ・英国と日本における研修医の抗菌薬使用・薬剤耐性菌の関する教育プログラムの比較研究 (Dr Eimar Branningan) 以上 Holmes 教授の指導のもと施行予定である。現在、計画書を作成しており、科研費申請を予定している。
国際研究ネットワークの新規構築／深化 （参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等）	・CIPM が開催した Annual Scientific Research Meeting に参加し、Imperial のほかの devision からの研究者や Public Health England のサーベイランス担当者と交流した。また、CIPM のほかの Work stream に属する Imperial Business School の研究者より院内感染対策への Implementation Science の応用について講義を受けた。 ・CIPM での別のミーティングに参加していた Singapor General Hospital の Dr. CP Thomas と薬剤耐性菌事情について交流し、さらなる研究の可能性について協議した。 ・Holmes 教授のすすめにより、outpatient parentral antimicrobial therapy に関する国際ワーキンググループに参加することになった。
在外研究経験による研鑽 （渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等）	・京都ではいわゆる Biological Science を中心に研究を行っていたが、Imperial では医療者以外にも Business School、工学部とも協同して院内感染対策についての発展的研究を行っていた。今後の自分自身の研究の方向性について再検討する余地があると思われた。 ・英国での院内感染対策における薬剤師の役割は非常に大きく、個々の薬剤師が潤沢な知識と経験、権限を持っていた。Imperial には英国唯一の教育プログラムがあり、資料提供を受け、コースの運営についてレクチャを受けた。まずは本学での教育プログラムの拡充について検討中である。 ・Imperial での研究費は外部資金獲得が重要であり、ある意味でスケールの大きなテーマが選ばれていた。結果として一流誌への投稿が可能となっており、Holmes 教授の人材運用法、指導法含め大いに参考になった。
フィールド研究の進展 （渡航先国で実施した実地調査や文献調査等の内容）	・英国での医療体制での枠組みの中の院内感染対策について、本邦ならびに他の欧米諸国との相違点に関する文献的考察を行った。また同時に、滞在期間中は Imperial College Healthcare NHS Trust における感染対策チームの一員として業務を行い、院内感染対策事業の展開について研鑽を積んだ。 ・また英国での感染対策医師の役割について、実際の業務を行い（正確にはサポートしながら）学んだ。 ・上記を研究する中で、本邦の感染対策における行政の役割について検討する必要性があると考えられ、諸外国との比較含め今後の検討課題であることがわかった。